

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 中島貞夫

山名	苗場山 2145m・谷川岳 1977m	山行名	例会
ルート	かぐら・みつまたスキー場―苗場山往復、土合―谷川岳往復		
山行日	平成25年7月8日～10日	天候	曇り時々晴れ、一時雨
参加者	リーダー：中島貞夫 サブリーダー：佐坂茂美 男性：鈴木正範、園上雅晴、三宅 武、 女性：徳田幸子、河野典子、 計 7名		

7月8日(月) 京田辺；7.00＝名神・北陸＝苗場山かぐらスキー場(標高1200m) 駐車場：15.40
テント泊

今回は7人の参加者なので、10人乗りのレンタカーを借りたので運転手以外はゆったりとしたと思う。和田小屋下の駐車場は広く、5台ほどの車があったがテントを張るスペースも十分あり、水洗トイレもあった。すぐ幕営の準備をする。ガスが覆ってきたが雨は降らなかったし、虫も少なかったので食事を楽しむことができた。夜中には晴れて満天の星空が見られた。

7月9日(火) 駐車場：5.30 発―和田小屋：5.55―六合目：6.55―中ノ芝：8.15―上ノ芝：8.40―神楽峰：9.12―苗場：10.40―ピストン 11.30―駐車場：15.20＝JR土合駅前 16.10 テント泊

4時起床、テントを片付けて登山口からスタートする。和田小屋の横を、大きな石が多く段差のある路と木道を交互に登っていくと明るく開けたところが「下ノ芝」と標識が出ている、池塘もある。近くの山腹には残雪も見られ北の高山の景色が広がっている。「中ノ芝」を通り樹林帯を過ぎると大きく開けた「上ノ芝」に着く。高層湿原が広がっている。花は少ないが白や黄色、堂段つつじ、岩鏡のピンク色が出てくる。日陰山への分岐をすぎると神楽峰 2030mに到着。ここでやっと苗場山の全容を見ることができた。ポスターや写真で見るとどっしりとした大きな山容に登ってきたなど感動を覚えたが、100mほど下って上り返さなければいけないのでここで気合を入れなおして進む。半分ほど下ると「雷清水」があり雪解け水と思われる、冷たくておいしく思わず甘露甘露と声が出る。鞍部をすぎると一気の登りで、ここを越えると遮るものない高層湿原の中、木道が続いている。池塘が広く散らばっており、2000mを超える高山の山頂とは思われない景色である。立山の弥陀ヶ原に似ている。近くに雲もなく、明日登る谷川岳も、近辺の山も360°見ることができた。山小屋「遊仙閣」で休憩(名前はひねってあるが普通の山小屋である)。ここから折り返して下山する。大きな石のごろごろした路もあったが、佐坂さんが先行してくれたので予定の時間には車に戻れた。数組の登山者とすれ違ったが多くはない静かな登山であったと思う。

谷川岳の登山口土合へ移動する途中買い物を済ませ、JR土合駅前でテントを張る。少し遅れたので急いで仕度をしてしたが、途中から夕立が降ってきたのでテントの中に移動して食事をする。8人用なので中が広くてよかった。寝る前には雨も止んだがテント内は暑かった。

7月10日(水) 土合駅前駐車場：6.00 発＝土合口ロープウェイ乗り場：6.10―マチガ沢出合：6.45―ロープウェイ乗り場：8.00―天神平：8.20―天神尾根―熊穴沢ノ頭避難小屋：9.10―肩の小屋：10.50―トマの耳：11.00―オキの耳：11.35―おり返し―肩の小屋―天神平―土合口ロープウェイ降り場：14.20＝温泉＝水上IC＝関越・北陸・名神＝京田辺市：25.30

全員早く目が覚め準備も出来たので、一ノ倉沢まで行って岩壁を見たいと思ったが土合口から先は今年から通行禁止になっており、しかたなく歩いてマチガ沢出合まで行って東尾根の岩壁とトマの耳、オキの耳を下から眺めて帰ってきた。観光客に混ざり、8時始発のロープウェイで天神平まで上がり、頂上を目指してスタート。ここまで楽に上がれるからか、山ギヤルを含め登山者が多い。熊穴沢ノ避難小屋まではトラバース路で半分壊れた木道を歩いたが、ここからは急騰で岩場が続き、ロープを下げているところもあったが山腹は笹が覆っており、見通しもよく風もあり快適な登りだった。トマの耳は雲が流れていたりしていたが、強い陽射しを遮ってくれるので休憩にはよかった。全員揃って山頂(オキの耳)で記念写真を撮る。疲れでペースはゆっくりだったが無事故で下山できた。

今回、テント泊山行が始めての人もいたが、テント張りや食事の準備など皆が協力しあって成功することがわかってもらえたと思うし、それがテント山行の楽しみになると思うので、今後も参加してほしいと思っています。

感想文

初めてのテント泊

園上 雅晴

山を登り始めてから約16年になりましたが、その間山小屋泊は何回かありましたが、テントでの宿泊は全くなく、むしろ避けておりました、なぜテント泊を避けたのかの理由は①未知への恐怖、②トイレの心配、③寝れるかの怖れがありました。

さて皆様と行動しました記録を記しますと。

6；52 京田辺発—7；57多賀サービスエリア—9；37女形谷SA—10；30小い道に入る—15；38駐車場着 全員ですき焼きを夕食 色々な話が出、楽しい夕食でした。9日AM3；30起床 朝食は前日のすき焼きの残りでおじや、美味しかった、トイレも洋式で快便でした—5；30登山スタート—5；55和田小屋着—6；55、6合目—8；00 7合半過ぎで休憩—8；15中の芝—8；40上の芝—9；12神楽の峰（9合目）—9；34雷清水 冷たい天然水は美味しかった—9；55、9合目 9合目手前はお花島、チングルマ、ニッコウキスゲ、イワイチョウ等—10；40山頂 しかし9合目から頂上までの間は厳しい岩登りの連続、疲れている所に岩登りの急登の連続は本当に厳しかった。2145mの山頂は広い広場、山頂前の地塘は雪渓と合わせ絶景でした。

11；30下山開始—12；15雷清水—12；45神楽峰—13；03上の芝—14；00下の芝—15；20下山完了 登り時に比して地面が乾いており歩き易くなっていた—18；10土合駅着 なんと明日の谷川岳ロープウエー駅レストランの従業員に道を聞き親切に誘導して頂き感謝感激。20；00頃就寝

7月10日起床（川の流るるの音と発電所の水量調整のタービンの音が聞こえ湿気とともにほとんど寝れなかった、トイレは土合駅のトイレを借用、きれいな洋式トイレ、快便できた、テントを畳み前日の寄せ鍋で雑炊の朝食—6；00スタートすぐにロープウェイ登山口に到着、ロープウェイは8時始発なのでそれまで時間つぶしにかの有名な一ノ倉沢近くまで中島氏の先導で散策—6；45アチガ沢着—7；20ロープウェイ登山口へ帰還—8；00ロープウェイ乗車、16分の乗車時間—8；20登山開始—9；10西熊穴沢の避難小屋—9；55天狗の留まり場、避難小屋から天狗の留まり場までは厳しい岩の急登の連続（これが谷川岳の厳しさの片鱗かと思いました）—10；30天神ザンゲ



谷川岳 オキノ耳にて

岩—10；50肩ノ小屋—10；55トマの耳—更に11；35オキノ耳（1977m）に全員登頂成功する—昼食後下山11；55—12；15肩の小屋—12；54天狗の留まり場—13；30二俣避難小屋—14；20下山完了ロープウェイ駅レストランに行き昨日の親切な従業員に全員ソフトクリームを注文し食す。

全員無事苗場山・谷川岳の2山に挑戦し完登、万歳、中島さん、佐坂さん他皆さん有難うございました、初めての色々な貴重な体験良かった、テント泊の感想は寝れなかった、テント泊の良さの判断は今回は保留、もう一度の体験が必要ですね。

苗場山・谷川岳

佐坂 茂美

出発前日にレンタ車や共同装備品を借りに行ったり、食糧調達の手助けと何かと気忙しい時間を過ごしましたが これも又楽しかったとこでした。

参加者全員を乗せナビをセットしての交替運転でしたので大した疲労を感じることなく湯沢スキー場からの取り付き地点の幕営予定地に到着。 テントを張り食事の準備をしいよいよ夕食の開始。前回のテント泊・加賀大日の失敗を教訓に今回はアルコールも十分にありすき焼きを主食に楽しいひ

と時を過ごしました。

苗場山は初めての山ですが 山頂部に湖沼、池塘が多くあるとのことで大いに期待して登りました。和田小屋を抜けスキーゲレンデを抜けるといよいよ山道に入ります。この山道はごろ石の連続で稗科山のルートを思い出させてくれました。神楽峰を捉えて暫らく歩を進めると下り道がまっすぐに下りきり直前の水場「雷清水」での水の美味さは忘れません。しかし眼前に苗場山が待っています。水場から見るとその山頂までの直登の厳しさが想像されます。

黙々と登り切り木道を辿るとのそこには一面の湖沼・池塘の世界でした。山の上にこんなに湖沼があるものかと、その美しさに驚きました。仲間からは今夜は此処に宿泊し朝にこの景色を楽しみたいとの声も出るほどの美しさでした。小屋横での食事。食事後は少しだけ違うルートを取り、残雪の残る景色を後にしピストンルートです。途中、又「雷清水」で喉を潤しました。下山途中で一足先に下山し車を和田小屋付近まで持ってこようと単独で駆けるように下山。和田小屋を左（これが間違い）に見ての舗装道路を進みましたがどうも様子がおかしな感じ地図を出しコンパスを出して位置確認。引き返す羽目に陥りました。どうにか駐車場から車を和田小屋まで運ぶ途中で皆と会い合流し、着替え次の目的地「出合駅」にナビをセットし直し出発。

ナビに任せたまわりましたが、右往左往する始末。スーパーの前に居た女性に土合までのルート確認した処、その女性に緑の上着に天神平と書かれていました。なんと、その人は天神平のレストランの従業員でした。教わった道を進んで行き信号で停まると、何故か一台の軽自動車が私達の車の前に割り込んで(?) 停まりました。???

だれが運転しているのか定かではありません。「もしかしたら・・・」その車もずっと私達の車を先導するかの様に前を走り続けました。そして目的の土合駅前。その車も停まり出てきたのはあの私たちにルートを教えてくれた女性でした。

「土合（水上？）の人は優しい」が皆の評価でした。

土合駅前でも前夜同様のテント、テント前での夕食。今夜は寄せ鍋。ところが突然雨が降り出し食事はテント内ですることになってしまいました。中で園上さんが一言。「テント内で食事をするとは仲間意識が芽生えますね」と。狭いテント内でヘッドランプをの明かりを頼りに鍋をつつく。これがテント泊の良さか。

夕食後、テント外の残り火を使い僅かの時間の談笑。そして就寝。

翌朝は谷川ロープウェイの入り口に駐車しマチガ沢、一ノ倉沢を目指して行くが入口で通年の進入禁止となっていた。マチガ沢では今日の目標ピークであるトマノ耳が見えている。ジャンダル、摩利支天のような姿に「待ってるよ 今日会いに行くからな」の心境であった。

20年程前は確か一ノ倉沢まで車で入ったし、あの光景は見せたかったが断念せざるを得ませんでした。唯9人乗りのシャトルバスは運行されており、一ノ倉沢までは入ってくれる。

天神平までロープウェイを使いこれで3度目のトマノ耳訪問である。苗場山程のシンドさも無く非難小屋、肩ノ小屋と通過しトマノ耳へ到着。昼食を済ませ10分程先のオキノ耳まで行く事に決め、ピストン。河野さんが「オキノ耳」を断念しそうになったが、皆で説得し全員でオキノ耳までの往復が出来た。大成功である。

今回の目標の2座を完登しいよいよ下山開始。

2時過ぎにロープウェイ駅に到着。

さあ、これからあの親切な人に面会だ。レストハウスに着くとその人も私達を目敏く認め冷たいお水を運んでくれた。皆でお礼を言い、ソフトクリームを注文し、その味を楽しみました。聞けばその人の名前は「ナカジマ」さんだそう。これもなにかの偶然か！ 親切な人である。頼まれれば引き受けてくれる優しさを持った人である。

こんな人情に巡り合えた山行は山での感激とは違った心温まる山行となりました。

今回の山行も私達の中島さんに引き受けて頂き実現出来ました。

両中島さん、そして同行の皆さん、有難うございました。楽しみました。



谷川岳 トマノ耳にて